

浦ノ内湾における赤潮発生予測情報 R8-2

【概要】

- ・ 令和8年6月12日の環境調査で、シャットネラ属の細胞密度が1 mLあたり10細胞（注意基準値）を超えました。
- ・ これまでの知見から、シャットネラ属の細胞密度が10細胞/mLを超えると、その後、1週間以内に漁業被害が強く懸念される100細胞/mL（警戒基準値）に達した事例が多くありました。
- ・ 現在、湾内の深度5mにおける水温は24℃台であり、シャットネラ属が**増殖可能な環境にあります。**
- ・ これらのことから、当該プランクトンが増殖可能な状況が続けば、**6月中旬のうちに100細胞/mLに達する可能性が高いと考えられます。**
- ・ 海や養殖魚に変化が生じたときは、すみやかに対応できるように十分注意してください。

【赤潮発生予測について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるシャットネラ属の赤潮発生状況を分析し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予測マニュアルを作成し、令和4年度から予測情報を提供しています。

【シャットネラ属の赤潮発生予測マニュアル（浦ノ内湾）】

- ① 海水中の当該プランクトンの遺伝子量が増加傾向にあると、その後、赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が10細胞/mLを超えると、1週間以内に本種が100細胞/mL以上まで増殖する可能性が高い
なお、当該プランクトンは10細胞/mLを超えてから、最短2日で赤潮（100細胞/mL）になった事例もありますので、十分注意してください
- ③ 深度5mの水温が22℃以上になると、当該プランクトンの赤潮が発生する事例が多い

以上